

デーリー東北
2018年(平成30年)7月7日(土曜日)(17)

八工大訪問団 科学フォーラムに参加

カザフで研究成果発表

八戸

学校法人八戸工業大の柳谷利通理事長を団長とする訪問団一行は、6月14～20日の日程でカザフスタンを訪れ、現地の国立ユーラシア大(ENU)などで行われた科学フォーラムに

参加し、八工大の研究成果を発表した。八戸地域の地盤情報のデータベース構築に関する研究内容を報告。ENUの関係者から高い関心が示されたといい、八工大関係者は訪問の意義を強調した。

(須田山裕太)

都市開発進行、高い関心



ENUで行われた学術講演会(八戸工業大提供)

カザフスタン訪問は、昨年6月に八工大とENUの連携協定締結に伴う事業の一環。柳谷理事長と長谷川明学長、橋詰豊講師が同国のアスタナ、アルマトイ両市を訪れた。

ENUでの学術講演会では、長谷川学長が土木の複合構造物に関する研究成果を説明するとともに、橋詰講師が地盤情報のデータベース構築に関する取り組みを発表。アスタナ市は約20年前に遷都され、都市計画や開発が進行中。まちづくりや防災の観点から、ENUの関係者が長谷川学長らの説明に高い関心を寄せていたという。

柳谷理事長は本紙などの取材に「今回の訪問をきっかけにカザフスタンやENUとの交流をさらに強めていきたい」と語った。

来年は八戸市で科学フォーラムを開く予定。